

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘病院では、下記の臨床研究(学術研究)を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究への協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

内視鏡的胃粘膜下層剥離術後潰瘍に対する Side Hole Method (SHM) による縫縮の有用性の検討
1. 研究の対象および研究対象期間 2024年11月13日から2026年12月31日に昭和大学藤が丘病院で胃疾患に対し内視鏡的胃粘膜下層剥離術を受けた患者さん
2. 研究目的・方法 胃腫瘍の治療として内視鏡的胃粘膜下層剥離術(ESD)は標準治療として行われています。しかし、ESD後の潰瘍からの後出血を4.4%認めると報告されています。後出血を減らすためには、プロトンポンプ阻害薬の内服と、ESD後潰瘍の血管に対し凝固処置を行うことが推奨されています。近年では潰瘍を縫縮することで後出血をさらに予防できる可能性があると報告されています。縫縮方法としては様々な方法が報告されておりますが、どの方法が最適であるか、またどのような患者さんで縫縮した方がよいかはまだ明確にはなっておりません。 ESD後潰瘍を Side Hole Method (SHM) で縫縮することでESD後出血を起こす可能性を減らすことができるのではないかと考え、SHMの成績およびその効果を明らかにするために研究を行います。
3. 研究期間 昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年3月31日まで
4. 研究に用いる試料・情報の種類 年齢、性別、抗血栓薬内服の有無・種類、ESD術者、縫縮術者、腫瘍部位、腫瘍径、最終病理組織結果、縫縮に使用したクリップの数、縫縮時間、翌日の残存クリップ数、翌日の縫縮程度、偶発症(後出血、遅発性穿孔、誤嚥性肺炎)
5. 外部への試料・情報の提供 該当いたしません
6. 研究組織 研究責任者 昭和大学藤が丘病院 消化器内科 五味 邦代

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘病院 消化器内科

氏名：五味 邦代

住所：横浜市青葉区藤が丘 1 - 3 0 電話番号：045-971-1151（内線 5791）